

二月例会御案内 (平成十九年)

財団法人 協和協会

△云長氏 塩川 正 十 郎

○ 御案内

二月二十日(火) 正午～二時半 参議院議員会館一階 第一会議室 (第五六四回)

講 題 新エネルギーの開発こそ国家存亡の急務——可能性ある新エネルギーにつき解説——
講 師 芦田讓先生(京都大学大学院工学研究科教授、エネルギー問題の権威、当協会理事)
地球上の石油資源の産出がピークを過ぎ、いま、石油産出国を除く世界各国が、いかにして石油などエネルギー資源を獲得するか、なりふり構わぬ争奪戦を演じております。そうした中、石炭も掘り尽くし石油の埋蔵もない日本が、今後、いかにして、国民に必要なエネルギーを確保してゆくかは、まさに国家存亡の急務であります。

日本もアメリカも、すでに、石油だけに頼らず、水力発電、原子力発電、天然ガス、太陽電池、風力発電、バイオマスからのアルコール燃料など、各種エネルギーを総合して取り組んでおりますが、なお、わが国の今後のエネルギー需要を満たすためには、常に新しい強力で効率のよいエネルギーを開発してゆくことが、不可欠であります。

そうした観点から、わが国エネルギー問題の権威である芦田讓京都大学大学院教授に、この国家的課題の解説をいただき、一同にて考えたいと思えます。重要課題、奮っての御参加を!

(清原記)

▽ 当日の会費 四千円(昼食の準備もあり、前日までに欠の御連絡をいただきました)

□ 御報告

新年一月十一日は、恒例により姉妹団体「時代を刷新する会」と共催で、「塩川正十郎会長を囲んでの新年懇親会」を、都市センターホテル・オリオンホールにて、開催いたしました。冒頭、清原専務理事より、昨年冬の臨時国会において、当団体が平成十二年ころより、政府へ要請書を提出し、働きかけていた「教育基本法改正」と「防衛庁の省へ昇格」が実現したこと
〔左頁へ〕

などの報告があり、出席者も揃ったところで、塩川正十郎会長より、『近年の政治・経済・社会状況について』と題して、年頭講話がありました。

その内容は、国政全般、すなわち、政治・経済・教育・外交・安全保障、近年の社会事象など、広範にわたっての講話で、それを、論旨整然と話され、一同、感銘して聞き入りました。当団体としては、その年頭所感を、本年取り組むべき指針を示されたものと受け止め、決意を新たにいたしました。その後、江口一雄常任理事の音頭で乾杯。会員からいろいろ御発言もあり、まことに和やかな新年懇親会でありました。(添付の「写真報告」参照)

▽ 当(財)協和協会は、「各界の志ある指導者・経験者が、党派・利害・打算を超えて、真に国家的見地から、我が国立国の基礎をなす諸課題を検討して、世の中に貢献しよう」との趣旨にて、昭和四十九年、岸信介元総理によって創設された財団。第二代会長は福田赳夫元総理。第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、そして、平成十五年十月七日、塩川正十郎元財務大臣が会長に就任しております。なお、平成十四年夏から、理事長に、半田晴久が就任しております。会員は、政・財・官・学・民各界の有志がバランスよく集まっています。国会議員・同秘書は随時参加自由。この月例講話会のほか、内部には、十五ほどの専門的な部会・委員会があり、これまでに、政府へ提出した意見書・要請書は、百二十四本に達しております。

事務局電話(03) 3581-1192 専務理事兼事務局長・清原淳平、重田、新堀、高津

◎ 添付のハガキ、または、FAXにて、前日までに、頭記月例会への御返信をいただきました。

▼ 事務局FAX(03) 3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

○ 二月二十日(火) 出 欠 (いずれかに○印——昼食弁当を用意するためにも)